人とかかわる力を育むための環境構成と援助の工夫

～思いを伝えながら遊ぶ姿を通して～









那覇市立小禄幼稚園教諭

南風　しのぶ

目次

**Ⅰ　テーマ設定理由　・・・

≪幼児教育≫

人とかかわる力を育むための環境構成と援助の工夫

～思いを伝えながら遊ぶ姿を通して～

那覇市立小禄幼稚園教諭　南風　しのぶ

Ⅰ　テーマ設定理由

近年，少子化，情報化，都市化，経済的な豊かさの中で，子ども達を取り巻く生活環境は大きく変化している。子ども達が安心して遊べる場や，幼児同士が触れ合って遊ぶ機会が減少し，テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えている。このような環境の変化から近年の幼児の育ちについて，他者とのかかわりが苦手であることや，我慢する力が弱い等の課題が指摘されている。

幼稚園教育要領では領域「人間関係」ねらいの中で「身近な人と親しみ，かかわりを深め」という文言がつけ加えられ，人とかかわる力を育む重要性が示された。さらに内容の解説の中で，「幼児は，相手に親しみを感じると，その相手に思ったことを伝えようとする。・・・（中略）また，伝わることで親しみをもつという循環を経て，次第に相手の思っていることに気付くようになり，幼児同士のかかわりが深まる。」と示されている。これらのことから，幼児同士のかかわりが深まるためには，相手に自分の思いを伝えていくことが大切であると考える。

本園の幼児の実態をみると，気の合う友達と一緒に遊びを進める幼児もいるが，友達とのかかわりが見られず，一人遊びを好む幼児，教師の側で安心してすごす幼児の姿も見られる。また，自己主張が強く相手の思いに気付けない幼児，自分の思いをうまく伝えられず，泣いてしまう幼児の姿も見られる。このような実態から，まずは教師との信頼関係を築き，幼児が安心感をもって遊びに取り組めるようにすることが大切である。そして，思わず伝えたくなるような豊かな体験をしたり，遊びを通して人とかかわる楽しさを味わったりするための教師のかかわりが重要であると考える。

これまでの保育を振り返ると，幼児同士がかかわりながら遊べるよう環境構成に取り組んできたが，幼児一人一人が遊びに夢中になれる環境とは言えず，取り組みが不十分であった。また，幼児同士がひとつの遊びにかかわり，一緒に遊ぶ姿を見て「思いを伝えながら遊んでいる」と捉え，見守る援助が多くなっていたと反省する。

そこで，幼児が人とかかわる力を育むため，自分の思いを伝えながら，友達と一緒に遊べるような環境の構成や教師の援助の工夫について研究を行いたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

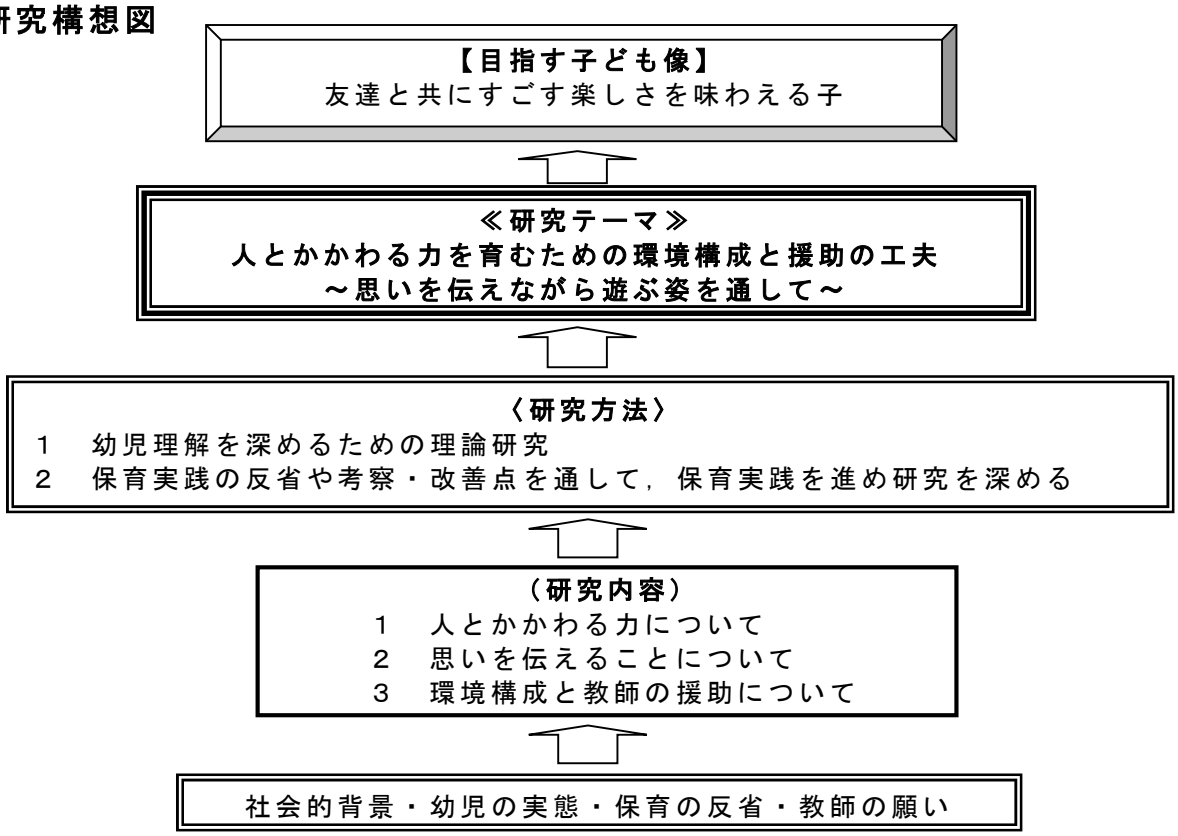
人とかかわる力を育むための，環境構成や教師の援助の工夫について研究する。

Ⅲ　研究方法

１　幼児理解を深めるための理論研究

２　保育実践の反省や考察，改善点を通して，保育実践を進め研究を深める

Ⅳ　研究構想図



Ⅴ　研究内容

１　人とかかわる力について

人とかかわる力の基礎は，幼児を愛し，受容し，応答する保護者や周囲の人々との間に芽生える信頼関係であり，その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。

幼稚園生活においては，何よりも教師との信頼関係を築くことが必要で，そこを安全基地として，幼児は周囲の環境に働きかけていくことができる。そこで教師や友達と触れ合い，自己を発揮しながら活動する楽しさや喜びを味わっていく。ときには自己主張のぶつかり合いによる葛藤を経験することもあるが，教師に共感してもらい，互いに理解し合う体験を重ねることで，人とのかかわりが深まっていく。

人とのかかわりの基礎について森上（1992）は「友達の中で自分というものに気付き，自分の世界を確かなものにしていくそのプロセスの中で，自分と同じ要求や世界（＝共通項）をもつ友達を発見し，それを認め，受け入れることが，人とのかかわりの第一歩となる」と述べている。このことから，園生活の中で幼児が安心感をもって遊びに取り組み，次第に周りの幼児の姿に目を向け，「私と同じ遊びをしている」「あの子の遊びがしてみたい」と感じていくことが大切であると捉える。その思いから遊びを共有するきっかけが生まれ，友達を認めたり，受け入れたりすることにつながり，人とかかわる力が育まれていくと考える。

そこで本研究では，教師との信頼関係や安心感を基盤にして，幼児同士が園生活の中で遊びや思いを共有し，人とかかわる力を育むことができるような，環境構成と教師の援助の工夫を考えていく。

２　思いを伝えることについて

(1) 思いを伝えることとは

思いとは「あることについて，心を働かせること。」伝えるとは「ある事柄や自分の考え，気持ちなどを相手に，言葉や身ぶりなどを使って，知るようにさせる。」（類語辞書より）と示されている。そのことから，幼児が思いを伝えるとは，見たこと，聞いたこと，経験したこと，したいこと等から心を働かせ，それが気持ちや考えになり表現されることであると捉える。

その表現は様々であり，言葉での表現，表情や全身を使った動きでの表現，幼児一人一人の表現の仕方があるため，その思いを読み取り，幼児の実態に合わせた適切な教師のかかわりが重要になると考える。

幼稚園教育要領解説では「教師は，幼児が友達と一緒に生活する中で，自分の思っていることを相手に伝えることができるように，また，徐々に相手にも思っていることや言いたいことがあることに気付いていくことができるようにすることが大切である」とされている。そのことから，幼児が自分の思いを友達に伝える楽しさや喜びを実感できること，また，友達の思いや考えに触れ，その思いに気付いていくことで友達とのかかわりが深まっていくと考える。

人の思いに気付くことについて，友定（2008）は「人間関係を豊かに体験してきた子どもが，相手の気持ちに気付くことはそう難しくはないが，そうでない場合には，保育者が機会を捉えて,丁寧に伝えていく必要がある。」と述べている。そのことから，教師が幼児の気持ちを丁寧に受け止めていくことは重要で，そうされて幼児は「自分のことを分かってくれる」と気持ちが満たされていき，次第に相手のことも考えられるようになっていくと捉える。

幼児は保育者に支えられながら，自分の思いを表現することができ，相手にも思いがあることを知ることができることからも，教師は一人一人の気持ちに寄り添った援助を心がけていきたい。

(2) 聞く力とは

自分の思いを伝えながら,友達とかかわって遊びを進められるようになるためには,幼児が自分の思いを言葉で伝えると同様に，教師や友達の話を「聞きたい」という気持ちを育むことも重要であると捉える。幼児は話を聞くことによって「自分もやってみたい」と遊びへのきっかけが生まれたり,「なるほど」と新たな考えに出会ったりすることができ，他の幼児の思いや考え，よさに気付くことにもつながっていく。

岩立（2008）は「幼児は相手とのやりとりを通して心地よい関係が形成されてくると，相手を知りたい，相手の話を理解したいという気持ちが高まり，相手の行動に注意や関心を向けたり,相手の話をよく聞くようになる。」と述べている。そのことから，幼児同士のやりとりを丁寧に受け止め，心地よい関係がつくれるよう援助していくことは重要である。そのような関係から友達への関心が芽生え,「相手を知りたい」「聞いてみたい」という気持ちにつながっていくと考える。

今回の研究では，幼児が思いを伝え合う中で，相手の話を聞きたくなるような，伝え合う場の工夫や，幼児の話に耳を傾けたり，言葉を添えたりする等の教師の援助の工夫に取り組んでいく。

3　環境構成と教師の援助について

(1) 環境構成とは

環境の構成においては，幼児が周囲の環境に意欲的にかかわり，具体的活動を通して様々な体験をし,望ましい発達を遂げていくよう促すようにすることが重要である。そのために教師は，幼児の発達の時期に即した環境，興味や欲求に応じた環境，生活の流れに応じた環境の視点をもち，具体的な環境の構成を考えていく必要がある。

これらの視点を踏まえて本研究では，幼児が人とかかわる力を育むために，友達と一緒に遊びながら，自分の思いを伝えられるような環境構成を次のように考え，実践に取り入れていく。

【環境①】幼児が興味や関心をもちかかわりたくなる環境の構成
（「面白そう」と感じる遊びや遊具・教材・身近な自然とのかかわり等）

【環境②】遊びに十分にのめり込むための時間と空間
（夢中になって遊べる時間の保障・友達と遊びを進めたり，広げたりできる場）

【環境③】他の幼児の動きが感じられる距離感
（友達の動きに気づいたり真似したりできるよう，友達の姿が見える距離）

【環境④】イメージが実現できるための素材や場の構成
（必要な素材・道具の準備，幼児自ら取り組めるような場の構成）

【環境⑤】思いや考えを伝え合う場の工夫
（自分の遊んでいることや思いを話したり，友達の考えに触れたり，聞いたりできる場）

(2) 教師の援助の工夫

幼児が人とかかわる力を育むためには，先に述べたように，教師との信頼関係を築くことが必要である。そして，個人差に配慮しながら，幼児ひとりひとりに応じた適切な援助が重要になると考える。本研究では，幼児が友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わい，自分の思いを伝えることができるようになるために，教師の援助の視点を次のようにまとめる。

【　】援助の視点	具体的なかかわりの例
【安心】幼児が安心感をもてるようにする	・教師のそばで一緒にすごし，気持ちを受け止める。 ・安心できる言葉かけをする。
【思い】自分の思いを出せるようにする	・幼児の思いを丁寧に受け止めて聞く。 ・自己発揮していく姿を温かく見守る。 ・幼児の思いを仲介したり代弁したりする。
【関係】幼児同士や遊び・思い・言葉等をつなぎ関係づける	・友達の様子に気づかせていく言葉かけをする。 ・友達の考えやよさを，周りに知らせる。
【共感】教師も一緒に触れたり感じたり共感したりする	・教師も幼児と遊びを共に行う。 ・幼児の頑張りや意欲を認めていく。 ・幼児の喜びや驚き等に共感する。

上記のような援助の視点をもちながら，幼児一人一人の気持ちに寄り添い，丁寧に読み取っていくことで，本研究の手立てとしていく。

Ⅵ　研究の実際

1　保育実践

(1)「一緒に遊ぶと楽しいね」（６月上旬）

幼児の姿	自分で好きな遊びを見つけて取り組む姿が見られ，遊びや場を通して，友達とかかわる姿が見られる。中には友達の遊びに興味はあるが，声がかけられない幼児や，遊びに流されている幼児の姿も見られる。	ねらい	友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
環境構成	・大型積み木や段ボール等を準備し自由にイメージしたり，友達と一緒に作ったりすることができるようにする。**【環境④】** ・遊びが広げられるよう場を確保し，友達の遊びが見えるようにする。**【環境②③】**		

幼児の遊ぶ姿	◇教師の読み取り　◎教師の援助
①「じゃんけんゲームだ～！」  ②「お家つくろうよ」  ③「あれ，やってみたい」  	◎幼児が意欲的に取り組む姿を見守ったり，手伝ったりしていく。**【思い】** ◇イメージが広がり，家から橋へ，じゃんけんゲームへと遊びが変化した。友達が一緒だと新たな考えが生まれたり，場を作って遊んだりする楽しさを共有できたのではないか。 ◎幼児同士のいざこざでは，教師が仲介し，互いの思いを受け止めながら，相手の思いも伝えていくようにした。**【思い】** ◎教師も仲間の一員になって遊ぶ。**【共感】【安心】** ◇幼児が教師の遊ぶ姿を見て，「楽しそう。一緒に遊びたい。」という気持ちにつながったのではないか。友達と言葉での簡単なやり取りをする姿も見られた。 ◎幼児のイメージや思いを受け止めながら共感したり，手伝ったりする。**【共感】【関心】** ◇遊びを傍観していたＹ子が，教師へ自分の思いを伝えてきた。友達のしている遊びが見える距離にいることで「やってみたいな」という気持ちにつながり，「先生に教えたい」という行動に表れたのではないか。 ◎「〇〇したい」と伝えてきたＹ子の気持ちに寄り添い，思いが実現できるように言葉をかけていった。**【安心】**

幼児の変容	・普段かかわりの見られない幼児同士が，大型積み木や段ボールを使っての「お家作り」等で遊びを共有していた。そこで，ことばを使っての簡単なやり取りが見られた。 ・自分の思いを伝えられず，泣いてしまうＹ子が，教師に自分のやりたいことを言葉で伝え，遊びに取り組み始めた。	考察	・自由にイメージを広げながら，友達と一緒に構成できる遊び①②を取り入れたことで，友達とのかかわりややり取りに繋がり，遊ぶ楽しさを味わうことができたのではないか。 ・友達の動きが感じられる距離感③を大切にしたことで，友達の遊ぶ姿に興味をもったり，動きを真似したり，一緒に遊ぶきっかけにつながったと考える。 ・次の実践に向けて，季節を考慮した環境や，幼児の言葉を読み取っていくような援助の工夫をする。

(2)「みて！みて！面白いよ」～シャボン玉・泥遊び～（６月下旬）

幼児の姿	気の合う友達と一緒に，好きな遊びに取り組む姿が見られるようになってきた。中には友達とのかかわりの中で自己主張が強い幼児や，自分の思いを言葉で伝えることに消極的な幼児がいる。	ねらい	自分の思いを出しながら，友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
環境構成	・身近な自然に触れ，満足して遊びに取り組める十分な時間と場を整える。**【環境①②】** ・様々な素材に触れたり，試したりすることができるよう道具を整える。**【環境④】** ・曲を流したり，ベンチを出したりし，ワクワクするような雰囲気作りをする。**【環境①③】**		

幼児の遊ぶ姿	◇教師の読み取り　◎教師の援助
①「みてみて！大きいシャボン玉」  ゆっくり吹くんだよ！ みてみて大きいシャボン玉できたよ	◇友達と一緒に様々な道具を試し，大きなシャボン玉が作れたことを嬉しそうに伝えてきた。喜びや感動を味わう体験となった。 ◎「本当だ！大きいね」と，幼児の感動や気持ちに答えて，周りの幼児にも伝えていった。**【共感】【関係】**
②「わ～あふれるよ～！」  いいよ！ もっとたくさんつくって	◎「どんどん出てきているよ！大盛りシャボン玉だね。」と言葉をかけ，気持ちを受け止めていく。**【共感】【思い】** ◇次々と溢れ出すシャボン泡の面白さ，不思議さが「もっとやりたい」と遊び込む経験になったのではないか。
③「気持ちいい～」  ムニュムニュしてる～ キャ～すべる～！	◎教師も泥に触れて，一緒に感触を楽しみながら遊び込んでいく。**【共感】【安心】** ◎泥だんごや泥のすべり台で夢中になる幼児の楽しさに共感し，「○○さん面白そうだね！」と周りの幼児にも気づかせていくようにする。　**【思い】【共感】【関係】** ◇全身で泥の感触を味わうことで，心も開放しながら遊び，感動や今までに感じたことのない思いが歓声となって発せられた。
④「やってみたら楽しいね！」  だんごいっぱい作ろう がんばって挑戦してみたよ。 ここに並べよう	◎泥遊びを拒否していたＲ子へ「先生も一緒に遊ぶから大丈夫よ。」と安心感をもたせる言葉をかけて遊びに誘った。**【安心】** ◇泥の感触の楽しさや，友達と言葉を交わしながら遊ぶ楽しさを味わえたのではないか。 ◎苦手なことに挑戦したＲ子の頑張りを認めていった。**【共感】**
⑤「みんなに話したいな」  どろ遊びがたのしかったです。	◇自分の思いをうまく表すことができなかったＳ子が，帰りの会で積極的に話すようになった。心が揺さぶられる体験をし，みんなに伝えたかったのだろう。 ◎Ｓ子の話をしっかりと受け止め，頑張りを認め，意欲に繋げた。**【思い】【共感】**

幼児の変容	・友達と一緒に遊びの楽しさに夢中になり，「ああしよう」「こうしよう」と自分の思いを言葉で伝え合う姿が見られるようになってきた。 ・「泥遊び嫌だ」と言っていたＲ子が，友達と泥だんご作りを楽しむ姿が見られた。 ・これまで自分の思いをうまく表すことができなかったＳ子が，全体の集まりの場で積極的に話すようになってきた。	考察	・感動や驚くような体験①②③があることで，自分の思いを言葉に出していくことにつながったと考える。②⑤ ・満足して遊びに取り組める場と時間を確保③することで，幼児ひとりひとりが遊びにのめり込む姿につながったと考える。 ・心地よい遊びを共有したことで④，友達との遊びも受容的になっていったと考える。 ・次の実践に向けて，一人一人の思いや考え，遊びをつなげながら，友達のよさに気付けるような援助を行う。

2　検証保育

(1) 本時までの取り組み

これまで人とかかわる力を育むため，２回の保育実践を通して幼児同士がかかわりをもち，遊びの中で自分の思いを出していけるような環境構成や援助の工夫を行ってきた。その結果，自分の気持ちを言葉に出したり，会話をしながら友達とのかかわりを楽しんだりする姿が見られるようになってきた。一人一人を認めながら幼児の気持ちに寄り添う援助や配慮，遊びに没頭できる環境構成の大切さが分かった。

そこで，今回の検証保育においては，友達と一緒に遊ぶ中で，自分の思いや考えを伝えることができ，友達の思いに気付くような環境構成や援助を工夫していきたいと考え，保育を行うこととする。

(2) 保育のねらい

・自分の思いや考えを伝えながら，友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 保育の内容

・自分の思いを伝えたり，友達の話を聞いたりしながら遊ぶ。

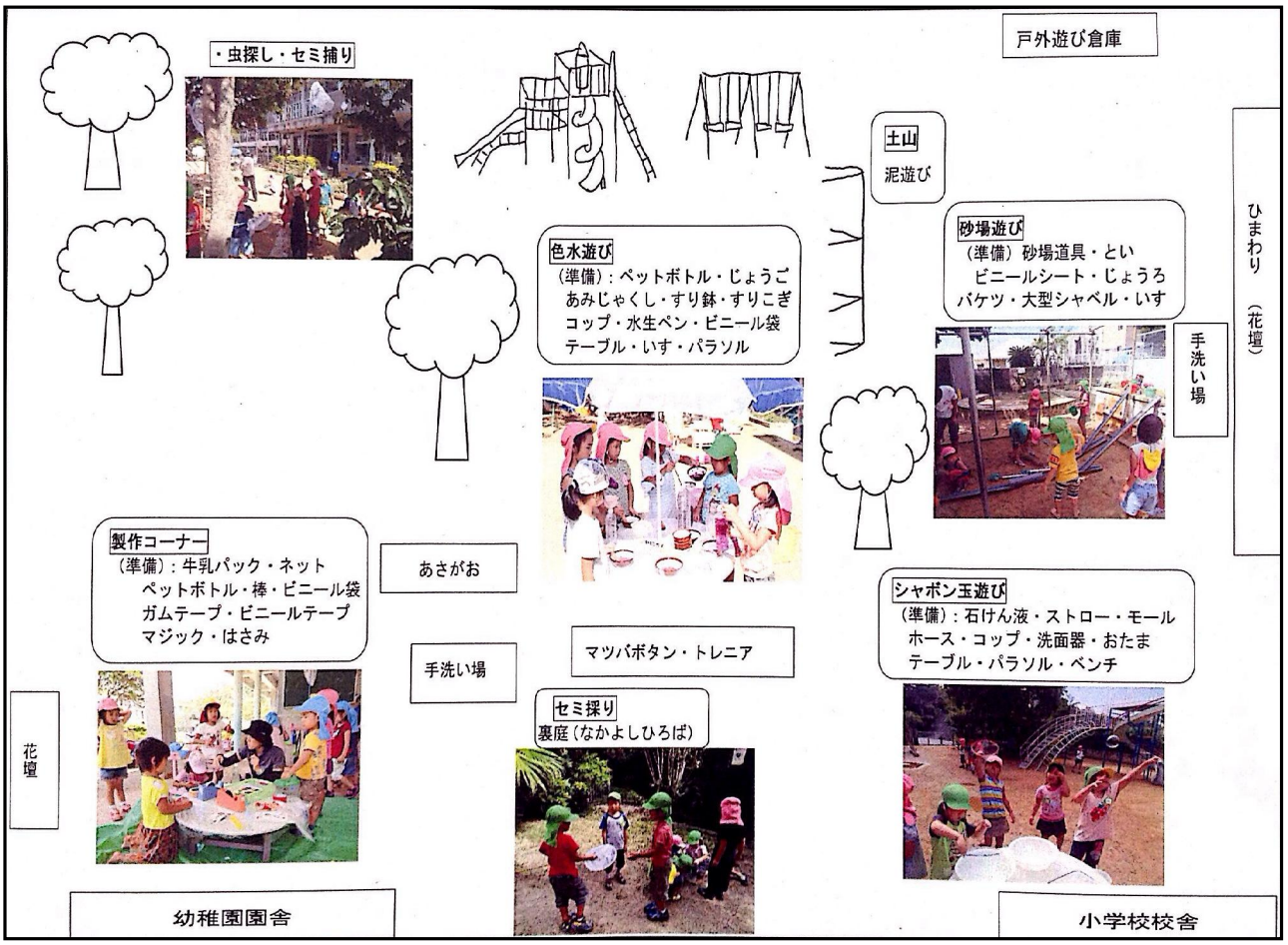
(4) 検証のねらい

・自分の思いを伝えながら，友達と一緒に遊べるような環境の構成と，援助の工夫をする。

(5) 園庭の環境構成

・夏の季節ならではの遊びを取り入れた環境の構成。

・様々な素材や道具を使い，考えたり，試したりすることができる環境の構成。



（6）保育の展開（本時・７月中旬）

幼児の姿	・ほとんどの幼児が「〇〇遊びしたい。」と遊びへの意欲が高まり，気の合う友達を誘って遊ぶようになってきた。園庭ではせみ捕りや虫探し，色水，シャボン玉，砂場遊びを友達と一緒に楽しむ姿が見られる。 ・遊びの中での発見や楽しさ，驚きを言葉で伝えようとする姿が見られるようになってきた。 ・友達の手作り虫かごを紹介したことをきっかけに，「自分の虫かごがほしい。」「自分で作りたい。」とイメージしながら取り組む幼児が増えてきた。	
時間	★幼児の活動　〇幼児の姿	※環境の構成　　◎教師の援助
8:20 8:45	★朝の集まり 〇遊びたいことを話したり，教師や友達の話を聞いたりする。 ★戸外遊び（好きな遊び） ・固定遊具　・砂場遊び ・せみ捕り　・虫探し・木登り ・シャボン玉遊び・色水遊び	◎昨日までの遊びの流れを確認し，遊びたいことに取り組めるよう，気持を高めていく言葉かけをする。**【安心】** ※子どもの動線に合わせ遊びがぶつからないよう，道具や場の配置をする。**【環境①②③】** ※いすやテーブルを配置し，遊びに取り入れたり，休息したりできるスペースを設ける。**【環境②④】**
	〇色水遊びでは花をつぶしたり，友達に作り方を教えたりする。 	◎遊びの準備を手伝いながら全体の様子を把握し，幼児同士で遊び始める姿を見守る。**【思い】** ※幼児自ら試したり，工夫したりできるような素材や道具を準備する。**【環境④】** ◎教師も一緒に遊ぶ。作り方が分からない幼児へ，友達のやり方を見せたり，周りの幼児に「どうやって作るの？」等，教え合ったり，気付いていけるよう援助する。**【共感】【関係】**
	〇砂場ではといを使って水を流したり，溜めたりして楽しむ姿が見られる。 	◎幼児が思いや考えを試していく姿を見守りながら，実現できないときは一緒に考えたり，手伝ったりする。**【思い】【共感】** ◎いざこざの場面では，幼児の思いや態度を柔軟に受け止め，状況に合わせて代弁しながらかかわる。**【思い】【安心】**
	〇せみ捕りや虫探しに夢中になり，捕ったことを嬉しそうに見せたり，友達に捕ってあげたりする。 	◎夢中になって遊ぶ姿を見守りながら，幼児が発する言葉や思いを丁寧に受け止めていく。他の幼児に知らせたり，幼児同士の会話へとつなげたりしていく。**【共感】【思い】【関係】** ※虫探しでは捕った虫を観察したり，遊びに必要なものを作ったりできるコーナーを設ける。**【環境①④】** ◎イメージした物が作れない幼児には，言葉をかけながら一緒に作っていく。**【安心】**
9:45	★片付け 〇使った道具を元の場所へ戻す。 〇手足を洗い，教室へ戻る。	◎明日も遊びの続きができると期待が持てるような言葉をかけながら，一緒に片づけていく。**【安心】【共感】** ※遊んだことや思いを伝えたり，他の幼児の遊びや考えを聞いたり触れたりできる場を設定する。**【環境⑤】**
10:15	★話し合い 〇今日の遊びの楽しかったことを発表する。 	◎楽しかったこと，考えたこと等の「伝えたい」気持ちに共感・応答し，幼児の自信につなげる。必要に応じて言葉を添え，伝え合う手助けをする。**【思い】【共感】** ◎他の幼児の遊ぶ様子や考えに触れ，友達を知っていくきっかけとなれるよう，幼児の言葉や思いをつなぎ知らせていく。**【関係】** ◎明日の遊びへの意欲や期待へとつなげる。**【思い】**

(7) 検証保育時の結果と考察

①砂場遊びの場面から

《結果》

砂場遊びでは，穴を掘って水を溜めたり，溜まった水に浸かったり，それぞれの遊びを楽しむ姿が見られるが，互いに思いを伝え合う場面はあまり見られない。そこで，幼児の遊び・思い・言葉をつなぎながら，幼児に寄り添い，共に考える援助を行うことで，「といを使って水を流したい」という共通の目的が生まれ，思いや考えを言葉に発しながら伝え合って遊ぶ姿が見られた。

・幼児の姿と言葉	教師の言葉かけ	◇教師の読取り◎援助※環境
・砂場では教師と数名の幼児が，水を溜めながら遊んでいる。その様子を，側でじっと見ていたＡ子が，教師に思いを伝えてきた。		※前日の遊びの続きに取り組めるように，道具を見える場所に整える。**【環境④】**
Ａ子「といを上にあげて水を流したいの。」	といを使って水を流したいのね。といを上にあげたいけど･･･落ちてしまうね。どうしたらいいかな？	※十分に遊び込める時間。遊びがつながり，広げられる場の確保**【環境③】**
Ａ子「････」・言葉が出てこない。	Ａ子さんがこのといを上にあげたいんだけど，どうしたらいい？	◎周りの幼児にＡ子の思いを代弁し，共に考えたり，試したりするきっかけを作る。**【思い】【関係】**
Ｂ子「わかった。下におろしてから，もう１つ長いものをジャーと流せばいいんじゃない？」	そうなんだ！Ａ子さん，やってみる？	◇友達の考えを良い考えと思ったのだろう。
Ａ子「うん。」		◎Ａ子の取り組む姿を見守りながら，周りの幼児へ気付かせるような言葉をかけていく。**【関係】【思い】**
・道具をつなぎ試すが，Ａ子も教師も，といを持ち続けている。	Ｃ子さん，見てくれる。先生が手を離したらといが落ちてしまうよ･･･	◎Ｃ子の伝えたい気持ちに耳を傾け，イメージを汲み取る。**【思い】**
Ｃ子「わかった。もしかしたら前に男の子がやっていたみたいに･･･」	おぼえているの？	◇自分の見た経験を「知っている」「伝えたい」と感じ，自信を持っているようだ。
Ｃ子「うん，おぼえている！」		◎周りの幼児にも投げかけ，考えや言葉がつながるようにしていく。**【関係】**
・側でこのやりとりをみていたＤ男		◎「何かいい考えがあるの？」と聞き，考えを引き出しながら，周りの幼児にも気付かせるようにする。**【思い】【関係】**
Ｄ男「わかった。これ，これ。（いすを持ってくる）」	Ｄ男くん，何かいい考えがあるの？	◇みんなで一つの目的に向かって考え，試しながら進み始めているようだ。
・Ｄ男がいすを持ってきて，といのつなぎ目に置き始めた。	いすを置くのね。手を離してみてもいい？「おー！ここはできているよ！」	◎幼児の言葉を丁寧に汲み取りながら，会話をつなげていく。幼児の動きにも目を向け手助けしながら，共に遊びを進め，楽しさを共感する。**【共感】【関係】**
Ｅ子「ここもいすで止めて！」		◇成功したことが嬉しかったのだろう。次々と，考えを伝えたくなっているようだ。
Ｂ子「そうだ，いいこと思いついた。これ（たらい）を使ったらいいんじゃない？」	「ここもいすで止める？」	
・Ｂ子が，たらいを差し出す。		
Ｄ男「えーと，そんなしたらさ･･･」		
Ｂ子「こっちからも水がこぼれているよ」		
・出来上がったといにＦ子が水を流す準備をしている。	「これでいいかな？」	
Ｆ子「お水，いきますよ～」		

《考察》

教師が幼児の思いを他の幼児へ代弁したり，共に考えたりするきっかけをつくることで，「わかった。」と，自分のイメージしたことを言葉で伝える姿や，友達の考えを取り入れて遊ぶ姿が見られた。これらの姿は，友達の困り感に気付き教えようとする優しさや，友達の考えを「良い考え」と認め，受け入れていった姿と考える。

また，幼児の思いに耳を傾け，互いの言葉や考えをつなぐ援助をすることで，遊びがつながり「といを使って水を流す」という共通の目的が生まれ，自分の思いや考えを伝え合いながら遊ぶ姿が見られた。これは，遊びを成功させたい気持ちから，友達と試行錯誤する姿につながっていったと考える。友達の多様な考えに触れて取り組み，思いを共感し合うことで，友達と遊ぶ楽しさを味わっていったと考える。

前日からの遊びが継続して取り組めるよう場や道具を整え，時間を確保していったことで，「やってみたい」と新たに遊びに参加する姿や，遊びに没頭する姿につながったと考える。

②個に応じた援助を通して（個の変容から）

Ｙ子は入園当初から不安な表情ですごし，自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手で，黙り込んだり，泣いたりしてしまう姿が見られた。Ｒ子は自分の思いを言葉で伝えることができ，遊びのアイデアも豊富である。しかし，自己主張が強く，自分の思いが通らないと怒って座り込んでしまう姿が見られた。友達と遊ぶ中で友達のよさに気付くように教師の援助を行ってきた。その幼児の変容（結果）をまとめた。

《結果》

	幼児の姿（４月）	教師の援助	幼児の変容（６月）
Ｙ子	不安な表情で過ごすことが多く，活動への取り組みも慎重である。自ら教師や友達へかかわる姿は見られない。自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手で，黙り込んだり，泣いたりしてしまうことが多い。	・言葉かけを多くもち，スキンシップを図り，教師の側ですごすことで安心感がもてるようにしていった。**【安心】** ・自分の思いを表情や言葉で伝えられたときには「よく分かったよ「頑張ったね」と認めていった。**【共感】** ・遊びの準備を手伝ってもらいながら，教師と一緒に遊んでいった。遊びを通して友達とのかかわりがもてるよう心がけた。**【安心】【関係】**	教師から話しかけると時おり笑顔が見られ，安心感をもてるようになってきた。お気に入りのＴシャツを見てもらいたくて，自ら教師に話しかけてきた。この話題をきっかけに友達とのかかわりがもてた。 
Ｒ子	好きな遊びや活動に積極的に取り組むが，苦手と感じる活動には，参加をせず「やりたくない」と不機嫌な態度をとる。友達へも積極的にかかわり自分の思いを出しているが，自己主張が強い。自分の思いが通らないと怒る・座り込む姿が見られる	・遊びの中のアイデアや考えて取り組む姿に「すてきだね」「いい考えだね」と言葉をかけたり，帰りの会で紹介したりし，Ｒ子のよさを伝えていった。**【共感】** ・いざこざではＲ子の思いを受け止めながらも，相手の思いにも気付けるよう仲立ちをしていった。**【関係】【思い】** ・苦手な活動に対して，「先生も一緒にやるよ。」「少しだけでもいいんだよ。」と毎回言葉をかけ安心感がもてるようにした。**【安心】**	虫が大好きなことを友達から認められ，自信がついてきた。虫が苦手な友達に「やさしく触ったら大丈夫だよ」と優しく教える姿が見られ，思いやりが育ち始めている。苦手な泥遊びにも「頑張ったよ。楽しかった。」と話し，挑戦する意欲が見られた。 

	検証保育時の姿（７月）	教師の読み取り
Ｙ子	一人で大好きなせみ捕りをしていたが，Ｒ子に誘われて一緒にせみ捕りを始めた。虫かごや虫網を一緒に作ったり，捕ったせみを虫かごにたくさん集めたりしている。	教師が側にいなくても大丈夫なようだ。Ｒ子に誘われたことが嬉しかったのだろう。自分から友達とのかかわりに踏み出すことができたようだ。表情も明るく，一緒に遊ぶ楽しさを味わいつつあるようだ。
Ｒ子	Ｙ子を誘ってせみ捕りを楽しんでいる。「一緒に長い虫網を作ろう。」「虫かごも一緒に使っていい？」と友達の思いに耳を傾けようとする言葉が聞かれた。	Ｙ子を誘って遊んだのは，一人で遊ぶよりも，友達と一緒に遊ぶことが楽しいと分っているようだ。「一緒に使っていい？」と聞いて，相手の気持ちを確かめていくこともできるようになってきたようだ。

《考察》

Ｙ子に対しては何よりも教師との信頼関係を築き，園生活を安心してすごせるようになるための援助を行った。Ｙ子の表情や動きでの気持ちを汲み取りながら，スキンシップを図り，教師と共にすごす機会をもつことで，表情も明るくなり自ら教師に話しかけたり，友達の誘いを受け入れて一緒に遊んだりする姿が見られるようになった。これは，教師に見守られている・受け入れられているという安心感が生まれたことによって，次第に周りの幼児に目を向け，自ら友達の誘いを受け入れることにつながったと考える。

Ｒ子に対しては本児の良さを引き出し，周りの幼児へ伝えていくようにした。友達から「Ｒ子は虫のことをよく知っている」と認められたことで，心が開かれ友達へ教えてあげようという優しさが行動になって現れた。また場面を捉えて友達の思いに気付かせていくような言葉かけをしていったことで，友達の話に耳を傾けたり，思いを確認したりする姿が見られ，友達への思いやりの心が育ち始めてきたと考える。

Ⅶ　研究のまとめ

幼児が人とかかわる力を育むために，自分の思いを伝えながら，友達と一緒に遊べるようになるための環境の構成と教師の援助の工夫を探りながら，全３回の保育実践を行った。実際に取り組んだ環境構成・教師の援助の工夫から分かったことと，幼児の変容についてまとめる。

１　環境構成と教師の援助の工夫から

(1) 環境構成

・友達の遊ぶ様子が見えたり，動きに気付いたりできる距離間を大切にすることで，遊びへの興味をもち，友達と遊び始めるきっかけにつながることが分かった。
・遊び込める時間と場を十分に確保することで，幼児は試行錯誤しながら遊びにのめり込む姿につながることが分かった。
・継続して遊びに取り組めたり，遊びに必要な物を作ったりできるように，素材や道具の準備，落ち着いて取り組める場を整えることの大切さを再確認できた。
・伝え合いの場を工夫することで，伝える喜びを感じたり，友達の多様な考えに触れたりし，友達のよさに気付くきっかけになることが分かった。

(2) 教師の援助

・教師も幼児と遊びを共に行うことで，幼児の心の安定や教師との信頼関係を深めていくことにつながることが分かった。

・幼児の気持ちに寄り添い，思いや考えに共感していくことは，「聞いてもらえた」という満足感を味わい，「伝えたい」という意欲へつながることが分かった。

・教師が幼児同士の遊び・思い・言葉をつなげ，代弁していくことで，幼児は友達と思いを共有しながら，共に過ごす楽しさを味わっていくことが分かった。

２　幼児の変容から

・これまでは自分の好きな遊びを楽しむことで満足していたが，友達の動きや言葉に気付き，真似をしたり，友達を誘って遊んだりする姿が見られるようになった。

・遊びの中で幼児同士の言葉を通したやり取りが増え，お互いのやりたいことが交わり共通の目的が生まれてくる過程，伝え合いながら一緒に実現に向かおうとする過程が見られた。

・話し合いの場では，自分の思いを積極的に言葉で伝える姿が多く見られるようになってきた。また，友達の話を聞き，「すごいね」「ふわふわことばだね」などの言葉が聞かれ，友達の考えに関心をもったり，認めたりしていく姿が見られた。

・ひとり遊びの多い幼児や，思いを上手く伝えられない幼児には，気持ちに寄り添い安心感がもてるよう援助をすることで，教師との信頼関係につながり，幼児が自己を発揮していく姿が見られるようになった。

Ⅷ　研究の成果と課題

１　成果

(1) 幼児の気持ちに寄り添い，安心感をもたせ，遊びや思い，言葉をつなぐ等の教師の援助を工夫することで，幼児が自己発揮し，友達と思いを伝え合いながら遊びや思いを共有する姿が見られ，人とかかわる力が育まれていった。

(2) 友達とかかわって遊べるようになるための環境構成の視点を明確にし，工夫することで，幼児は友達のよさに気付き，思いやりをもつ姿が見られるようになった。

２　課題

(1) 幼児同士がかかわりをより深めて遊ぶようになるために，幼児理解の視点を深めて，教師の援助をさらに工夫する必要がある。

(2) 言葉による伝え合いの楽しさを味わうために，一人一人の発達の特性を捉え，必要な経験を考え，環境の構成に取り組んでいく必要がある。

《主な参考文献・引用文献》

『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2008

『保育用語辞典』　森上史朗　柏女霊峰　ミネルヴァ書房　2013

『最新保育講座⑧保育内容「人間関係」』　森上史朗 小林紀子 渡辺英則　ミネルヴァ書房　2009

『新幼稚園教育要領の展開』　神長美津子　岩立京子　明治図書　2009

『幼稚園教育要領ハンドブック』　無藤隆　学研　2008

『幼稚園教育要領の基本と解説』　無藤隆　柴崎正行　秋田喜代美　フレーベル館　2008